

ヒヨドリ (学名: *Hypsipetes amaurotis*)

[スズメ目 ヒヨドリ科]



(左)ヒヨドリ (右上)スギの皮や小枝のほかビニールなどが使われたヒヨドリの巣 (右下)巣立ったばかりの若鳥

樹上や梢で「ヒーヨ ヒーヨ」と大きな声で鳴いている鳥を見たことがあるでしょうか。この鳥はヒヨドリです。飛びながら「ヒーイ ヒーイ」と鳴き、樹上で「ヒ ピピリ ヒ ピピリ」とゆっくりさえずるほか、「ピョルルル」、「ピヨピヨ」、「ヒツ ヒツ」、濁った声で「ビイビイ」、「ピョルピョル」と鳴くなど、とても多様な鳴き声を持っており、騒がしい点が最大の特徴です。

ヒヨドリは、北海道から本州、四国、九州、南西諸島まで日本全国に生息する鳥です。ただし、小笠原諸島や南西諸島に生息するのはオガサワラヒヨドリ(*H.a.squamiceps*)、リュウキュウヒヨドリ(*H.a.pryeri*)といった亜種であり、私たちが只見町で見ているヒヨドリ(*H.a.amaurotis*)とは遺伝的に少し異なります。日本ではどこでも見ることできる鳥ですが、日本周辺のサハリンや韓国、台湾といった狭い範囲にのみ生息する世界的には珍しい鳥です。

ヒヨドリは、全長28cmとスズメよりひと回り大きな鳥です。全身灰色の地味な色をしており、頬にある赤茶色の斑が唯一のアクセントになっています。波を描くように上下しながら飛ぶ行動

が特徴です。昆虫などの動物も食べますが、ナナカマドなどの果実やサクラの花蜜を好んで食べます。冬には、赤茶色に熟したカキを他の鳥を追い払ってまでも独占して食べる姿が見られます。低山や林縁のほか、農耕地や市街地など人の多い場所にも生息しています。

ヒヨドリは、北海道から九州まで周年見ることができるとは留鳥ですが、一方で、渡りをする集団がいることが知られており、秋には大群で渡りをする場合もあります。このことは、一年中ヒヨドリが見られる地域でも、同じ個体が見られているのではない可能性を示しています。只見町では、ヒヨドリは、冬になると減少し、ほとんど見ることが出来なくなります。しかし、3月の晴れた日には、林縁の樹上にヒヨドリが群れになり、騒がしく鳴き交わしている姿を見ることもあります。只見町でヒヨドリがどのように移動しているかははっきりと分かっていませんが、一部のヒヨドリは厳冬期には近隣の暖かい地域に一時的に移動し、雪がおさまり暖かくなってくると戻ってくるのだと考えられます。ヒヨドリの姿が見られるようになる3月には、もう春がそこまで来ています。

企画展示

「季節とともに生きる
只見の野鳥とその生態」

期間：1月17日(土)～6月7日(日)
好評につき開催期間を延長します。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています